



今日は、詩篇23篇をご一緒に味わいましょう。

この詩の作者は、紀元前1000年頃の古代イスラエルの王ダビデです。若い時に羊飼いであった彼は、この詩において自分と神との関係を「羊と羊飼い」にたとえて歌っています。また、後の時代に、イエスキリストはご自分のことを羊飼いと語られました。羊や羊飼いにあまり馴染みのない私たちですが、想像力を働かせてこの詩を味わってみましょう。

### ① 神は、私たちの必要を与えてくださる

“主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません。

主は私を緑の牧場に伏させ いこいのみぎわに伴われます。” 1-2

“私は、どんな境遇にあっても満足することを学びました。私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです。” ピリ<sup>4</sup>:11-13

### ② 神は、私たちを守り、正しい道に導いてくださる

“主は私のたましいを生き返らせ 御名のゆえに 私を義の道に導かれます。

たとえ 死の陰の谷を歩むとしても 私はわざわざを恐れませんが、

あなたが ともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖 それが私の慰めです。” 3-

“わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。牧者でない雇い人は、羊たちが自分のものではないので、狼が来るのを見ると、置き去りにして逃げてしまいます。それで、狼は羊たちを奪ったり散らしたりします。彼は雇い人で、羊たちのことを心にかけていないからです。わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っており、わたしのものは、わたしを知っています。…” 3ヨハ<sup>10</sup>:11-

### ③ 神は、私たちの生涯を、愛と恵みで満たしてくださる

“私の敵をよそに あなたは私の前に食卓を整え 頭に香油を注いでくださいます。

私の杯は あふれています。

まことに 私のいのちの日の限り いつくしみと恵みが 私を追って来るでしょう。

私はいつまでも 主の家に住みます。” 5-

<話し合ってみましょう>

- ・ダビデは、神を「主は私の羊飼い」と歌いましたが、あなたならば「主は私の□□です」と歌いますか。考えてみましょう。